

## 2022（令和4）年度（速報版）

## 第2期知床半島ヒグマ管理計画目標に関する状況（10月末時点）

## ○第2期知床半島ヒグマ管理計画の目標の達成状況

本計画の目標	目標値	結果			関連する主な対策
		2021(R3)	2022(R4)	~2027(R9)	
①計画期間内における、斜里町、羅臼町及び標津町内でのメスヒグマの人為的な死亡総数の上限目安を108頭以下とする。（注4、5）	18頭以下 （単年目安）	11頭	15頭	…	【平時】誘引物の除去、侵入防止用電気柵の設置・管理、住宅地周辺の草刈り  【出没時】問題個体の把握、非致命的追い払い、捕獲
	108頭以下 （累計）				
②計画期間内における、ヒグマによる人身事故（利用者等）をゼロとする。（注6）	0件	0件	0件	…	【平時】誘引物の除去、侵入防止用電気柵の整備、居住地周辺の草刈り  【出没時】捕獲、情報提供・注意喚起、利用自粛要請、施設閉鎖、緊急時の避難誘導
	（累計）				
③利用者の問題行動に起因する危険事例の発生件数を現状（第1期計画期間の年平均値。以下同じ。）以下に抑制する。（注7）	19件以下 （単年目安）	49件	28件	…	【平時】普及啓発、アクセスコントロール  【出没時】利用者側の問題行動に対する指導
	114件以下 （累計）				
④地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例の発生件数を現状以下に抑制する。	11件以下 （単年目安）	20件	6件	…	【平時】ゴミや食料の管理に関する指導、侵入防止用電気柵の普及・設置促進  【出没時】町広報誌・メール等による注意喚起
	66件以下 （累計）				
⑤市街地（ゾーン4）への出没件数を現状以下に抑制する。	95件以下 （単年目安）	121件	75件	…	【平時】誘引物の除去、侵入防止用電気柵の設置・管理、住宅地周辺の草刈り  【出没時】非致命的追い払い、捕獲
	570件以下 （累計）				
⑥斜里町における農業被害面積を現状から5%削減する。（注8、9）	536a以下 （6年平均）	365a	年度末集計	…	【平時】農地への電気柵普及・設置促進、地元猟友会・地域住民との情報交換 【出没時】捕獲
⑦漁業活動に関係する危険事例の発生件数を現状以下に抑制する。	2~3件以下 （単年目安）	0件	1件	…	【平時】番屋への電気柵普及・設置促進  【出没時】非致命的追い払い、捕獲
	16件以下 （累計）				
⑧ヒグマによる人身事故を引き起こさないための知識、ヒグマに負の影響を与えずにふるまうための知識を地域住民や利用者に現状以上に浸透させる。	-	-	-	-	【平時】地域住民や利用者への普及啓発

（注4）当該地域におけるヒグマの個体数に係る新たな知見が示されるなど状況に変化があった際には、その結果を踏まえ科学的な見地から人為的な死亡総数の目安について再考する。

（注5）本計画で定めたメスヒグマの人為的な死亡総数の目安は、北海道ヒグマ管理計画において定められている、道東・宗谷地域東部（阿寒白糠以東）の「計画期間総メス捕獲上限数」に含まれる。

（注6）危険な場面に立ち会うことの多い捕獲従事者は、地域住民や利用者とは性質が異なるため、捕獲従事者の人身事故は別途集計を行う。

（注7）「9. 管理の方策」において問題行動と位置付ける行為。

（注8）本目標は、斜里町鳥獣被害防止計画の目標（令和5年度に令和2年度比5%削減）を参照したもの。

（注9）標津町や羅臼町においてもデントコーンや牧草ロール等に農業被害が発生しているが、被害の発生頻度や被害額は斜里町と比較して少なく、被害として計上する状況には至っておらず、鳥獣被害防止計画においても農業被害に関する目標を明確に設定していない。したがって、目標には掲げずに被害状況を注視することとする。

知床半島ヒグマ管理計画目標である①～⑧のうち、数値目標が設定されていない⑧以外について、2022（令和4）年4月から10月の期間における状況（速報版）を以下に記した。

目標① 計画期間内における、斜里町、羅臼町および標津町でのメスヒグマの人為的な死亡総数の上限目安を108頭以下とする。

- ・3町におけるヒグマの人為的死亡個体の内訳は、メスが15頭（斜里町6頭、羅臼町7頭、標津町2頭）、オスが25頭（斜里町9頭、羅臼町11頭、標津町5頭）であった（表1）。なお、メスヒグマの人為死亡位置は、図1に示す。
- ・人為死亡個体の死亡直前の行動段階を表2に示す。行動段階1が最も多く22頭、次いで行動段階2（農作物加害）が13頭であった。
- ・羅臼町で5月31日に、車両にすり寄る、漁業用のテントに近づく等の問題行動をとっていた行動段階3の個体が捕殺された。

表1. 2022年4月～10月までのヒグマ人為的死亡個体の内訳（年齢別・町別・性別）

年齢/町・性別	メス			オス		
	斜里町	羅臼町	標津町	斜里町	羅臼町	標津町
0歳	2	0	0	0	0	2
1歳	0	2	0	2	0	0
2歳	0	3	0	0	3	0
3歳以上	4	2	2	7	8	3
小計	6	7	2	9	11	5
合計	15			25		

表2. 2022年4月～10月までの人為死亡個体の死亡直前の行動段階

行動段階		斜里町	羅臼町	標津町	計
3	人へのつきまとい/攻撃	0	1(1)	0	1(1)
2	非農作物(生ゴミ・干し魚等)	0	0	0	0
2	農作物加害	13(5)	0	0	13(5)
1+	過度人なれ	1(0)	0	1(0)	2(0)
1	人なれ	1(1)	17(6)	4(1)	22(8)
0	警戒心強い	0	0	0	0
判定不能	わな錯誤捕獲など	0	0	2(1)	2(1)
計		15(6)	18(7)	7(2)	40(15)

※判定不能の2件は人材育成捕獲および狩猟によるもの

※( )内はメス頭数を示す

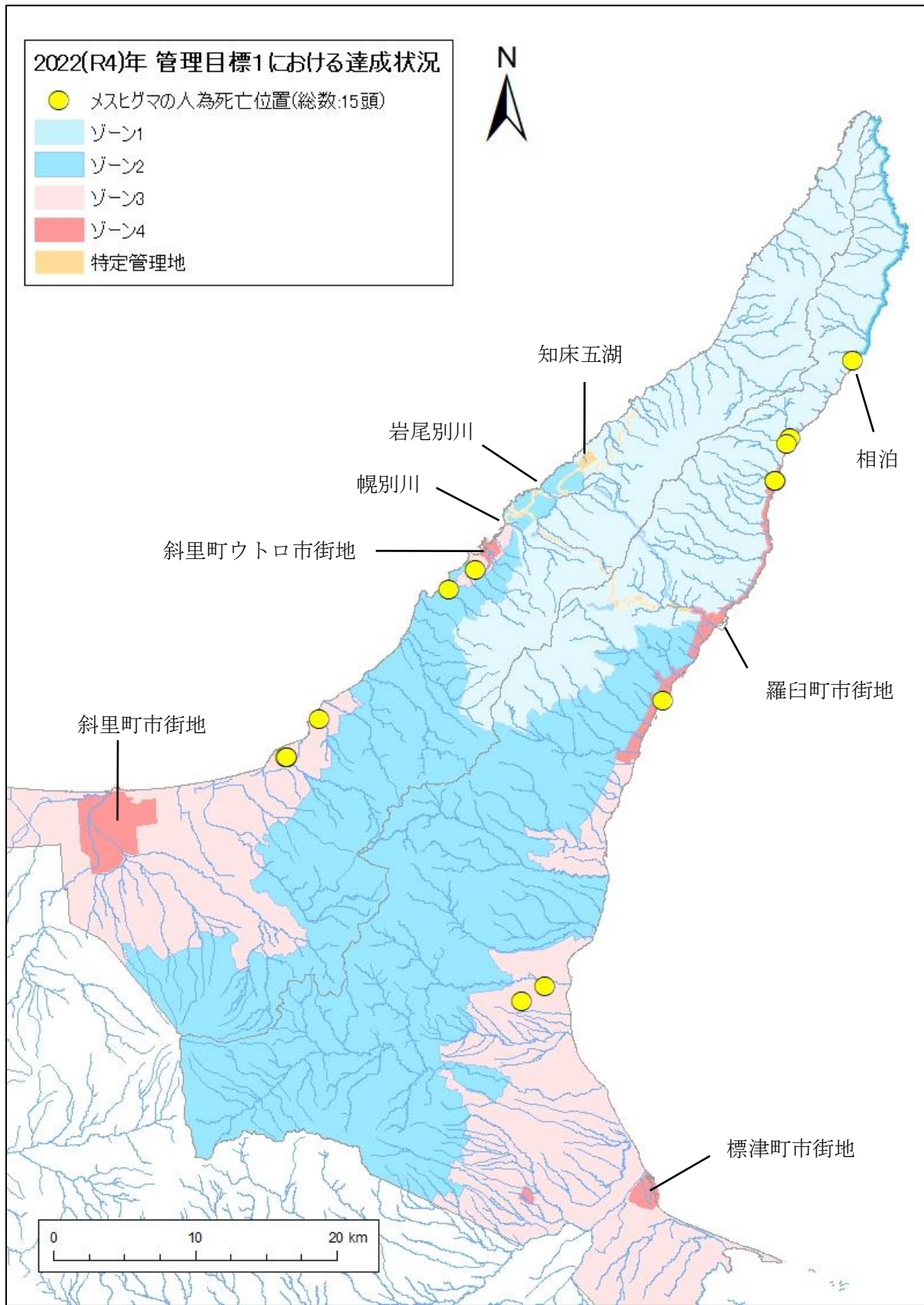


図1. 2022(R4)年4~10月までのメスヒグマの人為死亡位置

目標② 計画期間内における、ヒグマによる人身事故（利用者等）をゼロとする。

- ・ヒグマによる人身事故は発生しなかった。

目標③ 利用者の問題行動に起因する危険事例の発生件数を現状以下（累計 96 件）に抑制する。

- ・利用者の問題行動に起因する危険事例は計 28 件（斜里町 26 件、羅臼町 2 件）発生した（図 2）。標津町では発生しなかった。
- ・行為別では、撮影・観察が最も多く、その約 8 割が国立公園内の幌別・岩尾別地区で発生していた（図 3）。

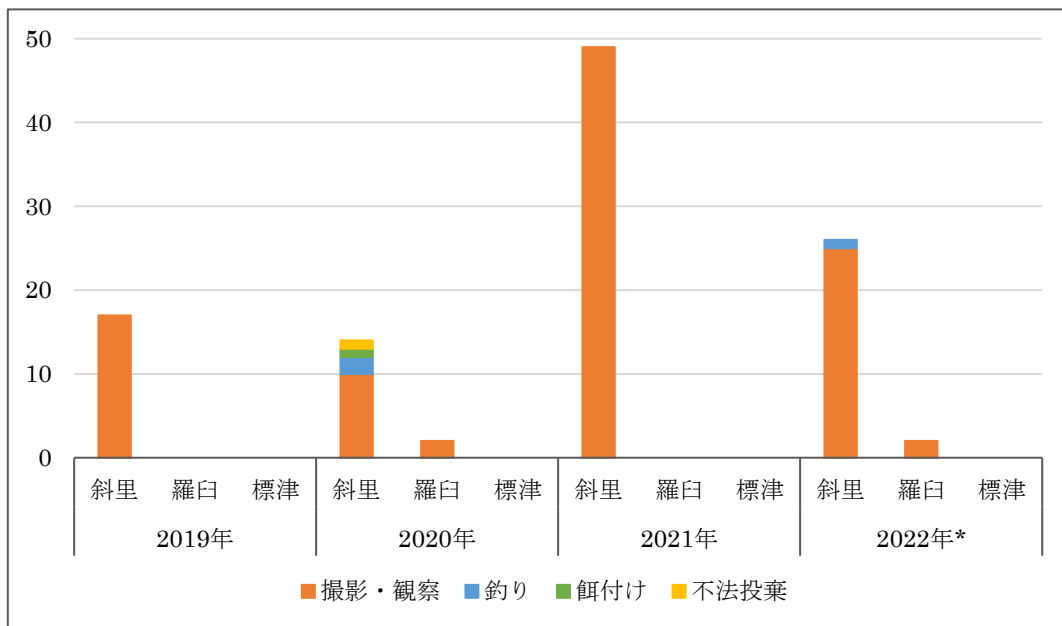


図 2. 利用者の問題行動に起因する危険事例の発生件数の推移（2019～2022 年）

\*2022 年は 4～10 月まで。

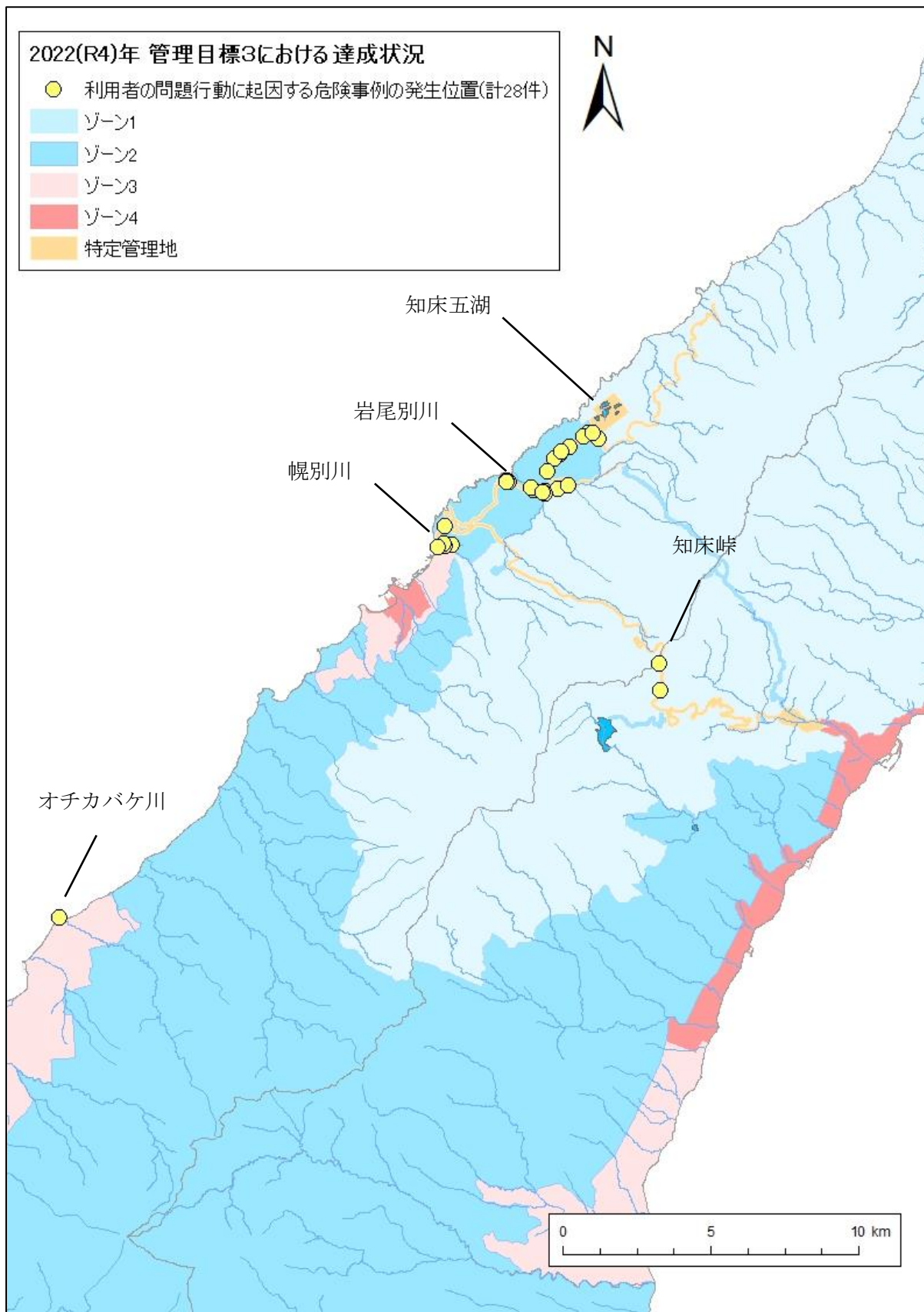


図3. 2022(R4)年4～10月までの利用者の問題行動に起因する危険事例の発生位置

目標④ 地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例の発生件数を現状以下（累計 57 件）に抑制する。

- ・地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例は斜里町で 6 件発生した（図 4、5）。羅臼町および標津町では発生しなかった。

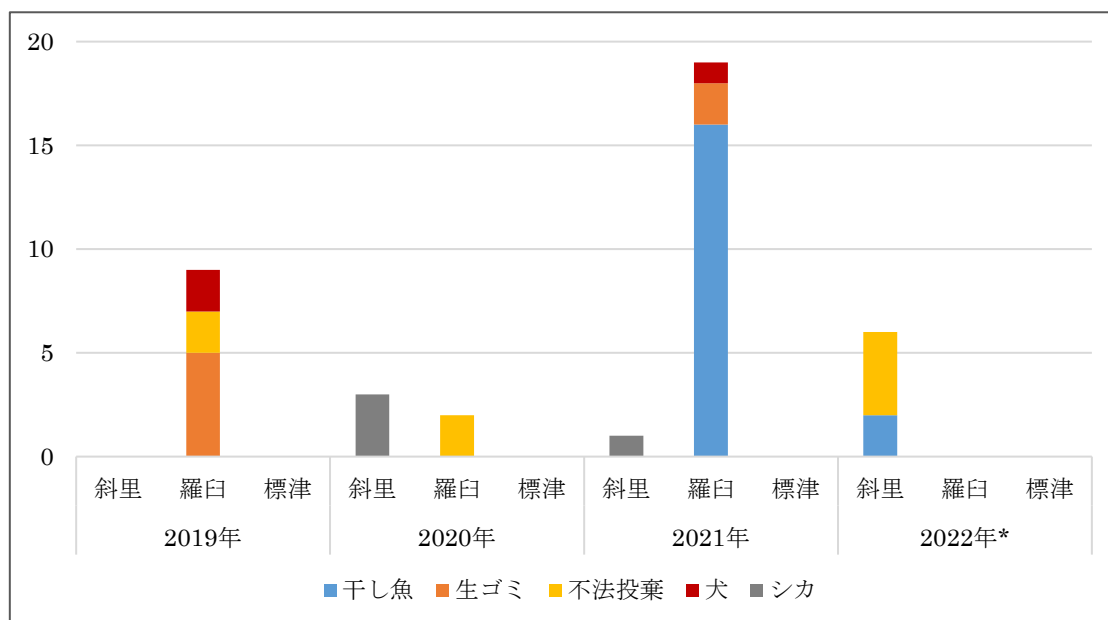


図 4. 地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例の発生件数の推移(2019～2022 年)  
\*2022 年は 4～10 月まで。

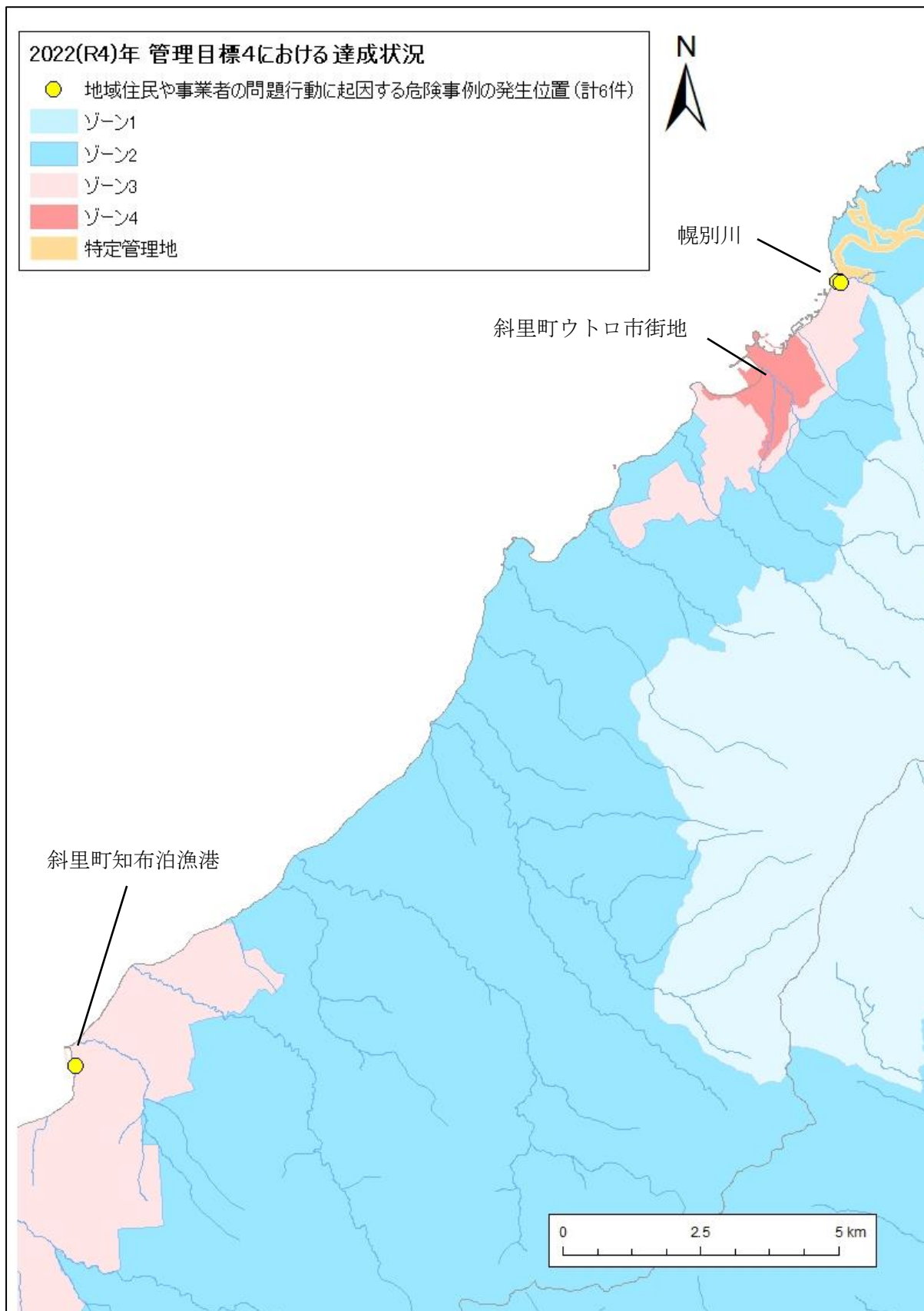


図5. 2022(R4)年4～10月までの地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例の発生位置

目標⑤ 市街地（ゾーン4）への出没件数を現状以下（累計475件）に抑制する。  
 ・市街地（ゾーン4）へのヒグマの出没件数は75件（斜里町3件、羅臼町71件、標津町1件）であった。市街地（ゾーン4）への出没位置を図6～9に示す。

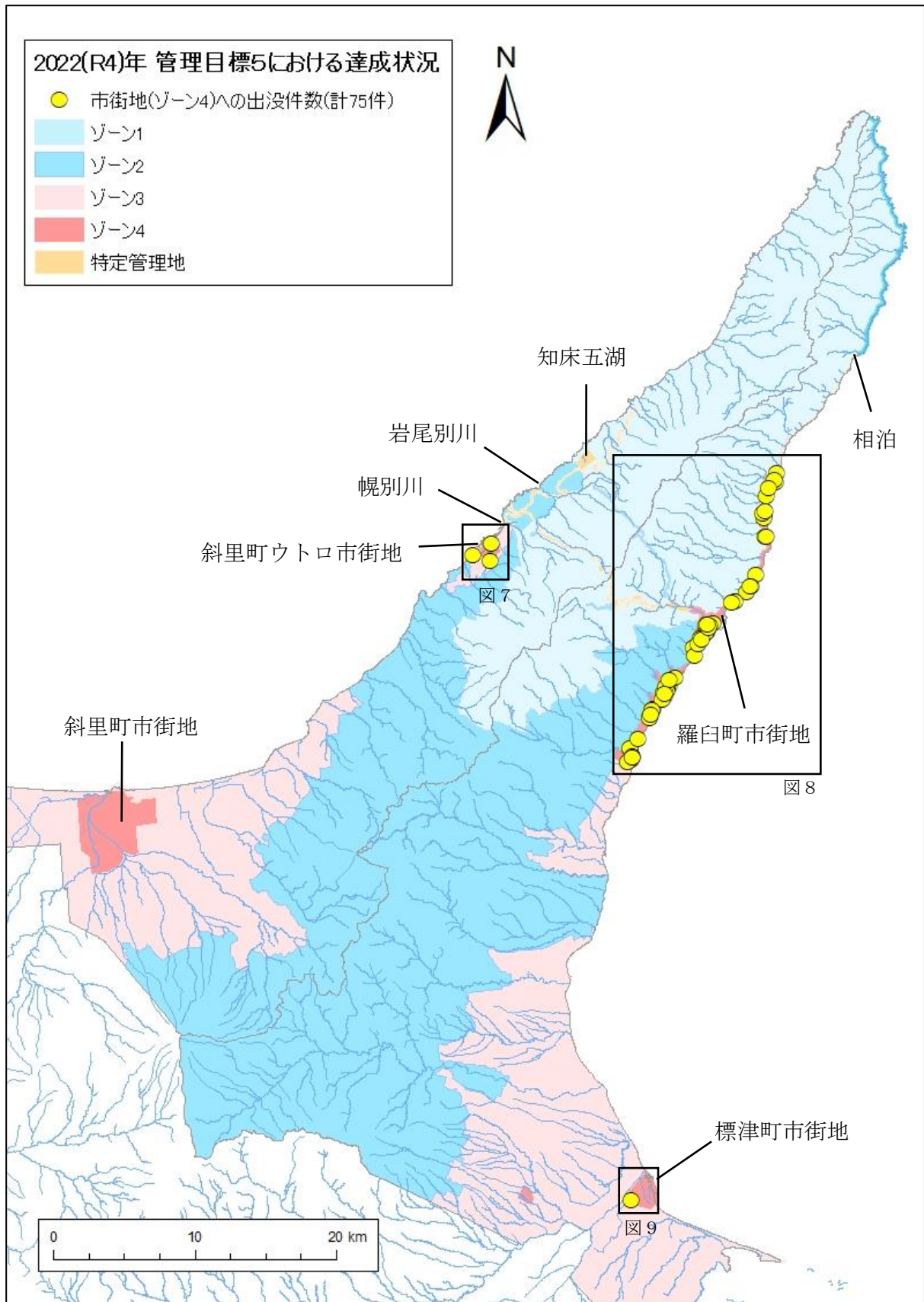


図6. 2022(R4)年4～10月までの市街地（ゾーン4）のヒグマ出没位置



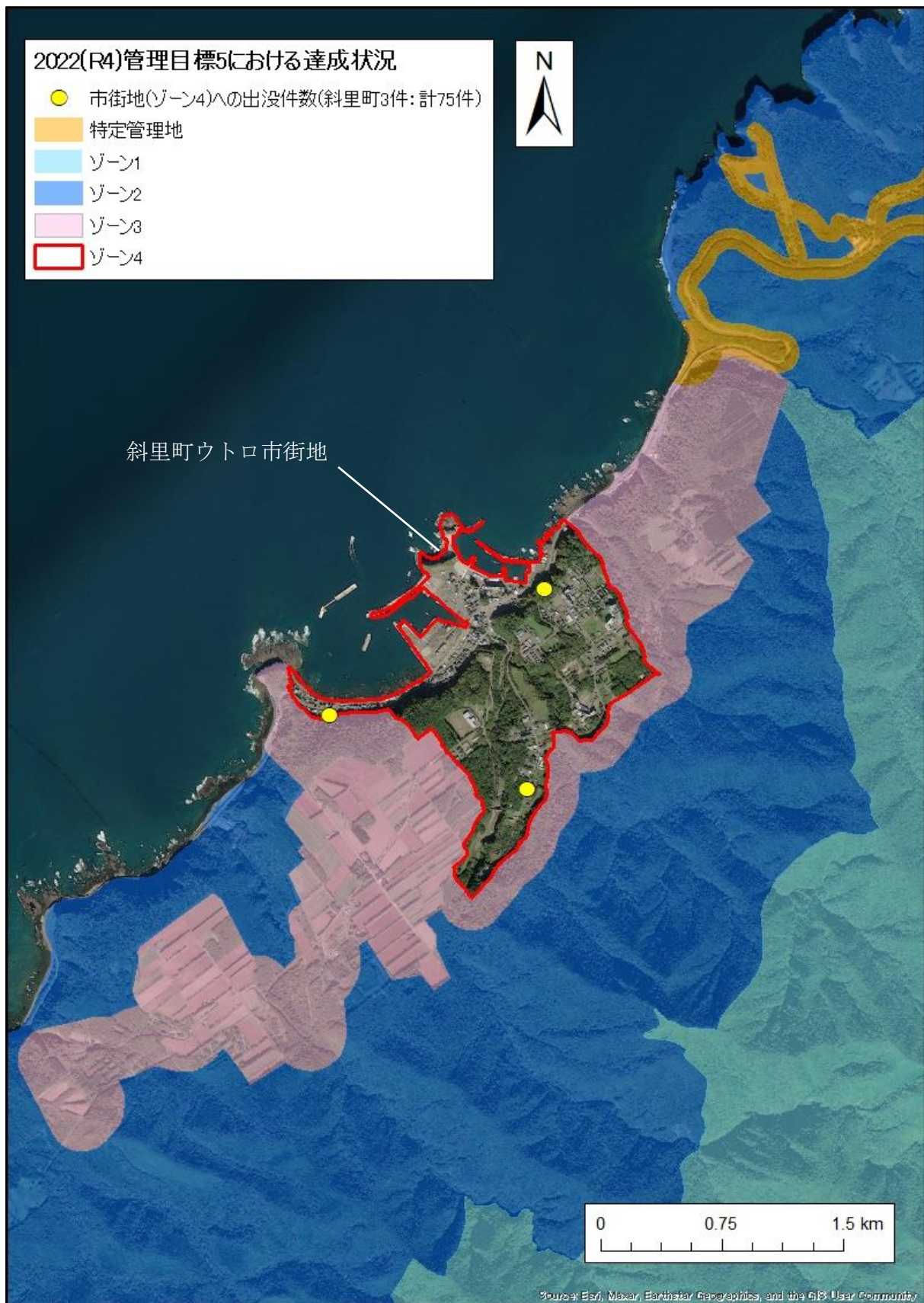


図7. 2022(R4)年4～10月までの市街地（ゾーン4）への出没位置（ウトロ市街地拡大図）

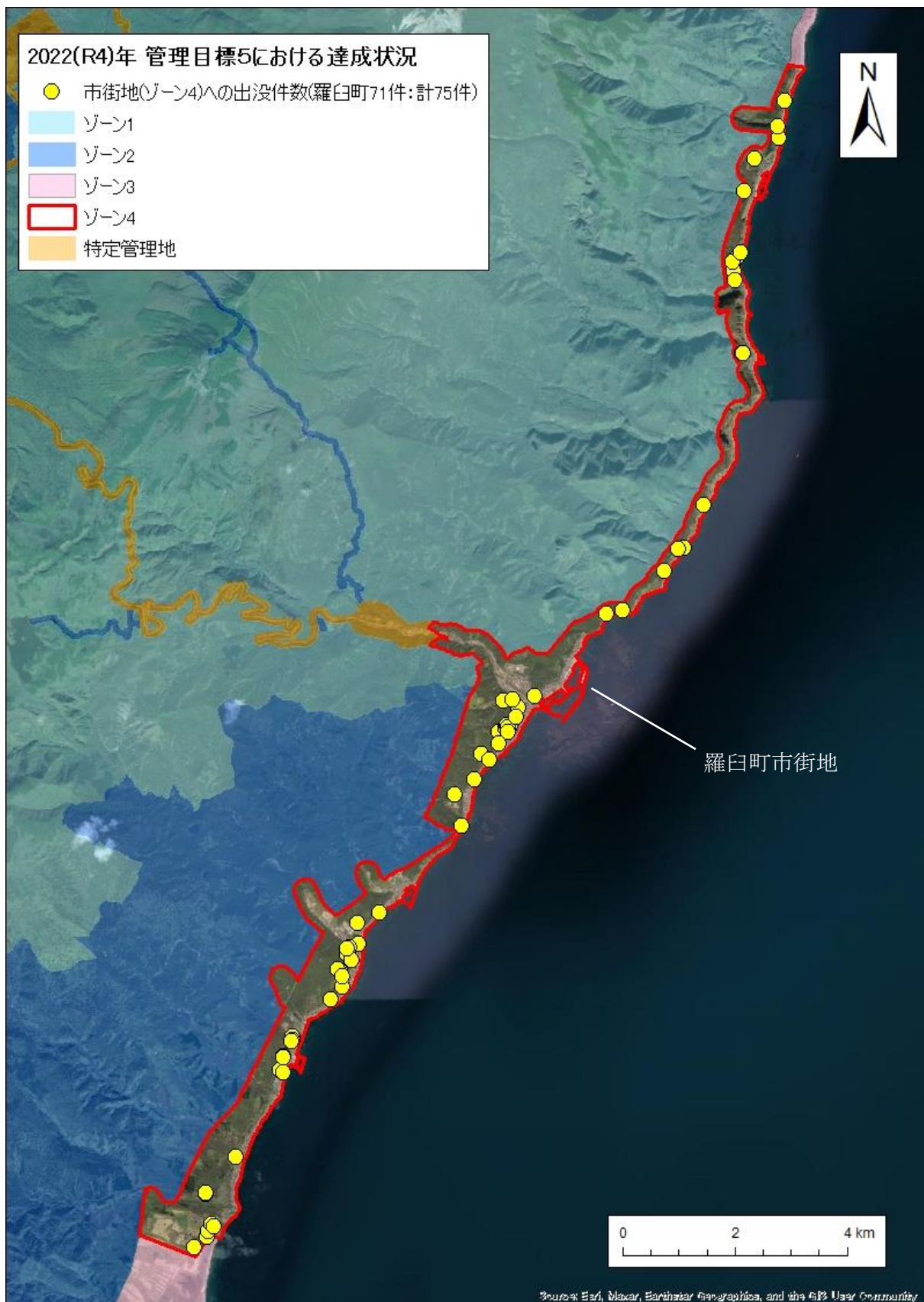


図 8. 2022(R4)年 4～10月までの市街地（ゾーン4）への出没位置（羅臼町市街地拡大図）

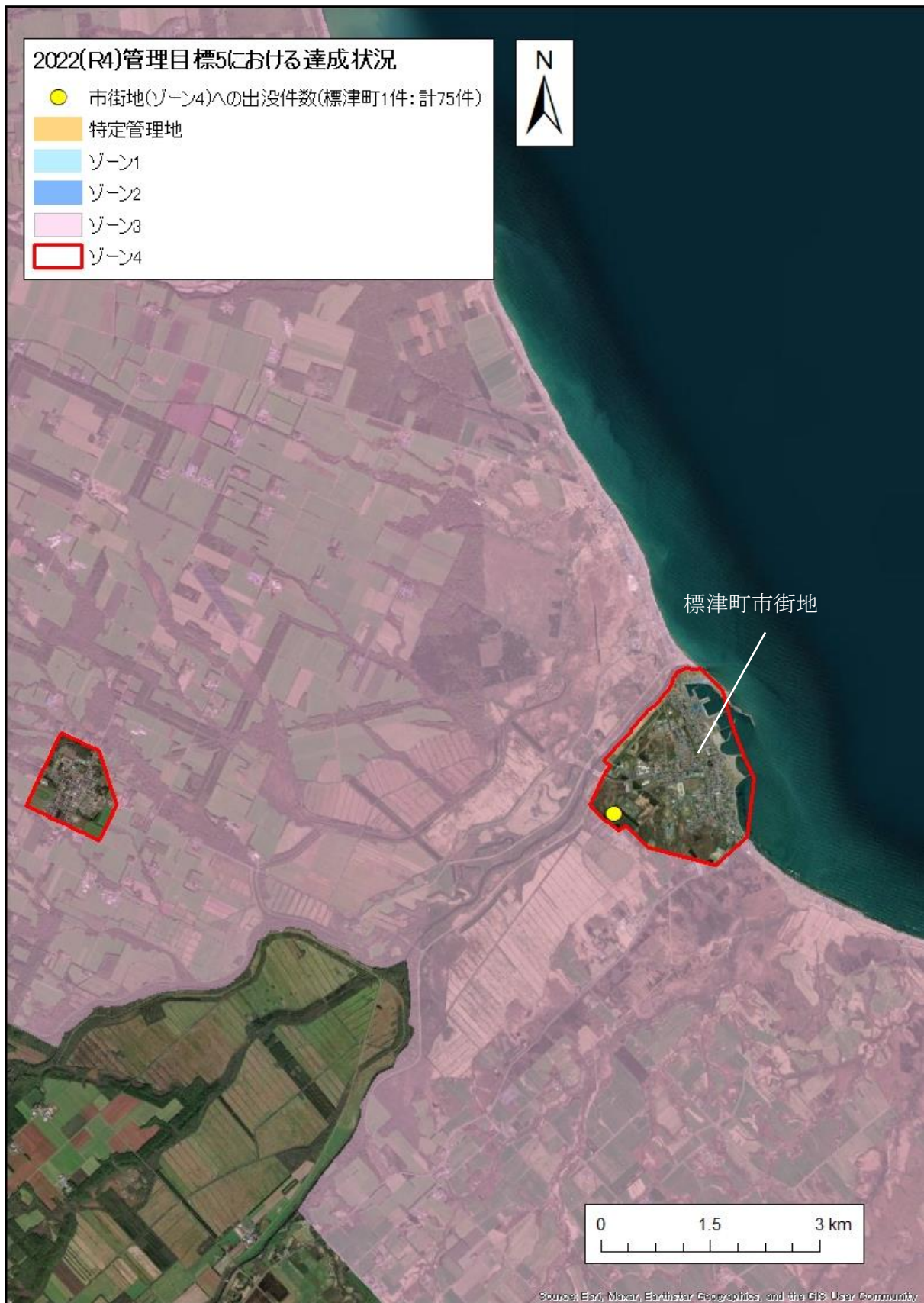


図9. 2022(R4)年4～10月までの市街地（ゾーン4）への出没位置（標津町市街地拡大図）

目標⑥ 斜里町における被害面積を現状（536a（5年平均））から5%削減する。

- ・ビートや小麦の被害情報あり。集計は年度末。

目標⑦ 漁業活動（特に羅臼側の昆布番屋等）に関する危険事例の発生件数を現状以下（13件）に抑制する。

- ・漁業活動に関する危険事例は羅臼町で1件発生した（図10）。

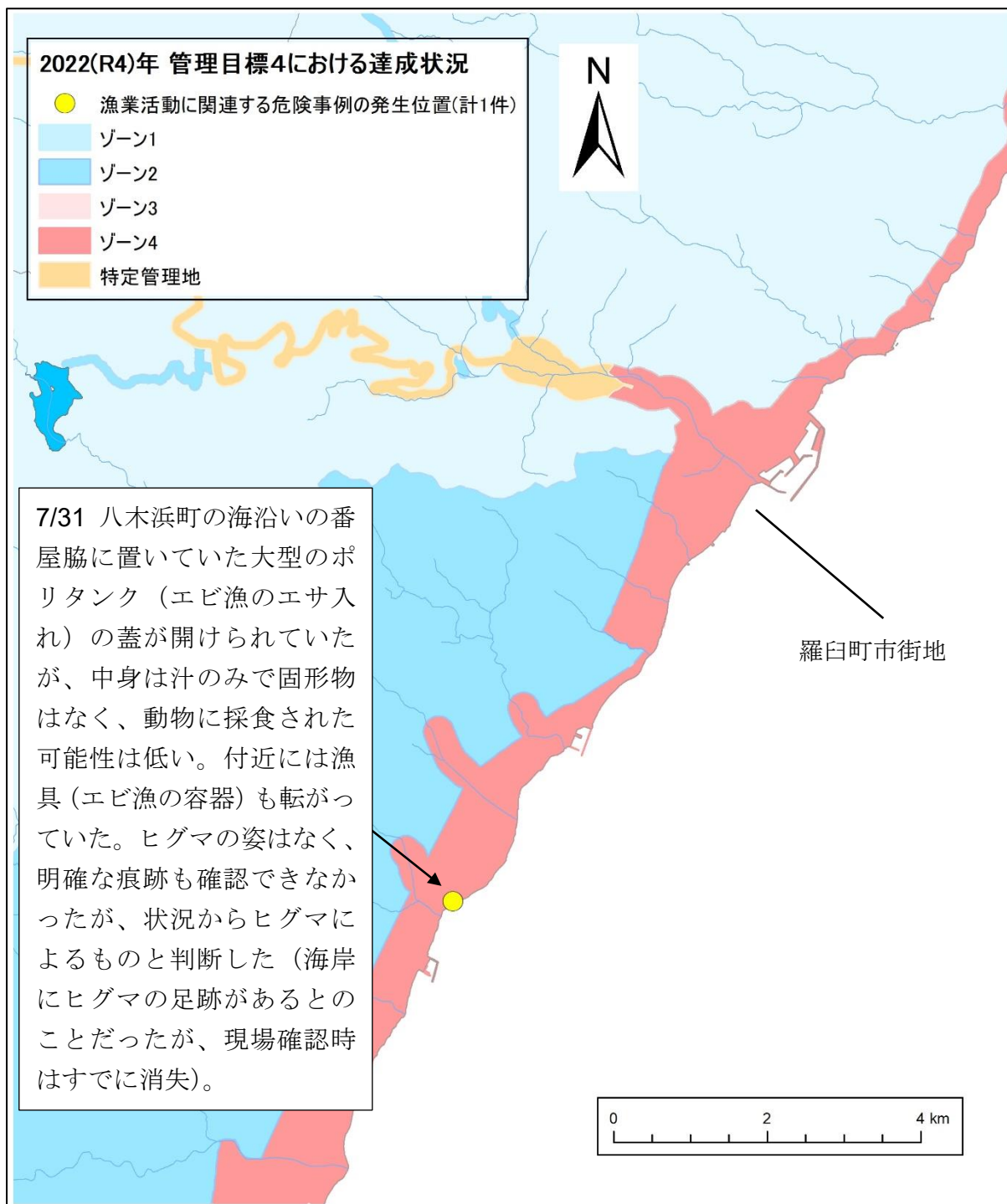


図10. 2022(R4)年4～10月までの漁業活動に関する危険事例（羅臼町拡大図）

<参考> 斜里町・羅臼町・標津町における人為死亡個体(狩猟・有害捕獲・事故等)の死亡直前の行動段階

\*青字はオス 赤字はメスを示す。

\*ゾーン・行動段階は、知床半島ヒグマ管理計画に基づく。

2022年(4~10月)

行動段階	斜里町	羅臼町	標津町	計
3 人身被害	0	1	0	1
2 非農作物(生ゴミ・干し魚等)	0	0	0	0
2 農作物加害	13	0	0	13
1+ 過度人なれ	1	0	1	2
1 人なれ	1	17	4	22
0 警戒心強い	0	0	0	0
判定不能 わな錯誤捕獲など	0	0	2	2
計	15	18	7	40

※判定不能の2件は人材育成捕獲および狩猟によるもの

ゾーン区分(斜里町)				
4	3	特定	2	1
	8	5		
1		1		
1	14	0	0	0

ゾーン区分(羅臼町)				
4	3	特定	2	1
		1		
7	4	2	2	2
11	4	3	0	0

ゾーン区分(標津町)				
4	3	特定	2	1
	1			
	3	1		
	1	1		
0	7	0	0	0

2021年

行動段階	斜里町	羅臼町	標津町	計
3 人身被害	0	0	0	0
2 非農作物(生ゴミ・干し魚等)	1	3	2	6
2 農作物加害	11	0	0	11
1+ 過度人なれ	1	3	0	4
1 人なれ	4	8	0	12
0 警戒心強い	0	0	0	0
判定不能 わな錯誤捕獲など	2	0	2	4
計	19	14	4	37

ゾーン区分(斜里町)				
4	3	特定	2	1
			1	
	8	3		
1				
2	2			
	1		1	
5	12	0	2	0

ゾーン区分(羅臼町)				
4	3	特定	2	1
2	1			
1	1		1	
5	2	1		
11	2	1	0	0

ゾーン区分(標津町)				
4	3	特定	2	1
	2			
	1	1		
0	4	0	0	0

2020年

行動段階	斜里町	羅臼町	標津町	計
3 人身被害	0	0	0	0
2 非農作物(生ゴミ・干し魚等)	1	0	0	1
2 農作物加害	5	0	0	5
1+ 過度人なれ	0	1	0	1
1 人なれ	0	4	1	5
0 警戒心強い	0	0	0	0
判定不能 わな錯誤捕獲など	0	0	2	2
計	6	5	3	14

ゾーン区分(斜里町)				
4	3	特定	2	1
		1		
	3	2		
0	5	1	0	0

ゾーン区分(羅臼町)				
4	3	特定	2	1
	1			
2	1	1		
2	2	1	0	0

ゾーン区分(標津町)				
4	3	特定	2	1
		1		
	2			
0	3	0	0	0

2019年

行動段階	斜里町	羅臼町	標津町	計
3 人身被害	0	0	0	0
2 非農作物(生ゴミ・干し魚等)	0	2	1	3
2 農作物加害	24	0	0	24
1+ 過度人なれ	0	6	0	6
1 人なれ	2	4	2	8
0 警戒心強い	0	0	0	0
判定不能 わな錯誤捕獲など	3	1	2	6
計	29	13	5	47

ゾーン区分(斜里町)				
4	3	特定	2	1
	15	9		
1	1			
	2		1	
2	26	0	1	0

ゾーン区分(羅臼町)				
4	3	特定	2	1
1	1			
4	1	1		
1	1	1	1	
	1			
9	3	1	0	0

ゾーン区分(標津町)				
4	3	特定	2	1
		1		
	2			
0	3	0	2	0

2018年

行動段階	斜里町	羅臼町	標津町	計
3 人身被害	0	0	0	0
2 非農作物(生ゴミ・干し魚等)	1	6	0	7
2 農作物加害	7	0	0	7
1+ 過度人なれ	0	1	0	1
1 人なれ	2	6	1	9
0 警戒心強い	0	0	0	0
判定不能 わな錯誤捕獲など	3	1	3	7
計	13	14	4	31

ゾーン区分(斜里町)				
4	3	特定	2	1
			1	
	3	4		
1	1			
		1	1	1
2	8	0	2	1

ゾーン区分(羅臼町)				
4	3	特定	2	1
2	1			
		1	2	
1				
3	3			
	1			
10	1	1	2	0

ゾーン区分(標津町)				
4	3	特定	2	1
	1			
	1	1		
0	3	0	0	0

※1件狩猟によるオス成獣の捕獲(行動段階は判定なし)があったが、ゾーン不明のため上記の表には記載していない

## 特に留意すべき未捕獲の問題個体について

## 1) 知床横断道路における問題個体の対応状況

国道 334 号知床横断道路の斜里町側においては、亜成獣クラスのヒグマが車両に接触する事例が 10 月以降 8 件確認され、うち 2 件はヒグマが車両のドアミラーを破損させるといった事例が発生した（表 1）。

なお、現状 DNA による個体識別には至っていない。当該個体への対応として、冬期通行止めの国道 334 号線知床横断道路にて当該個体の有害捕獲を実施したが、捕獲には至らなかった（表 2）。

表 1. 知床横断道路（斜里町）での危険事例の発生状況

発生日時	ヒグマ構成	発生状況
10 月 8 日 12:00	単独亜成獣	車両につかまり立ちをし、ドアミラーを破損させる
10 月 8 日 13:16	単独亜成獣	車両につかまり立ちをする
10 月 8 日 13:30	単独亜成獣	車両につかまり立ちをする
10 月 8 日 17:30	単独亜成獣	車両につかまり立ちをする
10 月 9 日 13:50	単独亜成獣	車両につかまり立ちをする
10 月 14 日 12:00	単独亜成獣	車両につかまり立ちをする
10 月 15 日 12:45	単独亜成獣	車両につかまり立ちをし、他車両に威嚇突進をする
10 月 17 日 15:25	単独亜成獣	車両につかまり立ちをし、ドアミラーを破損させる

表 2. 知床横断道路（斜里町）でのヒグマ問題個体の有害捕獲の実施結果

実施日時	実施結果
11 月 8 日 10:00-16:00	捕獲対象の個体と思われるヒグマを確認、条件が揃わず捕獲を見送る
11 月 9 日 10:00-16:00	ヒグマ、痕跡等の確認なし
11 月 10 日 13:00-16:00	ヒグマ、痕跡等の確認なし
11 月 16 日 14:00-16:00	捕獲対象の個体とは別個体のヒグマ 2 頭を確認
11 月 17 日 14:00-16:00	捕獲対象の個体とは別個体と思われるヒグマの痕跡を確認

## 2) 日の出地区における問題個体の対応状況

斜里町日の出地区において、魚干し小屋の干し魚をヒグマに奪われる被害が9月から10月にかけて2件発生した。その後、周辺エリアのビニールハウス内にヒグマが侵入する事例が2件、道路工事の作業員が夜間にヒグマと至近距離で遭遇し車内に避難するといった事例が1件発生した。また、11月以降には、周辺エリアのビートの集積場でヒグマによるビートの食害が続いており、電気柵の設置による被害防止策を進めているが、依然として周辺での被害が継続して発生している（表3）。

なお、同地区では被害のあった現場周辺から採取した糞などのDNA分析から2個体のヒグマが検出されており、複数のヒグマがこれら事例に関与している可能性がある。

表3. 斜里町日の出地区におけるヒグマの危険事例及び被害の発生状況

発生日	発生状況
9月4日	屋外の魚干し小屋で干されていた魚がヒグマに奪われる
10月19日	屋外の魚干し小屋で干されていた魚がヒグマに奪われる
10月22日	ビニールハウス内にヒグマが侵入し、置かれていた農作物が荒らされる
10月25日	ビニールハウス内にヒグマが侵入する
11月4日	道路工事の作業員が夜間にヒグマと至近距離で遭遇する
11月19日	農地に集積されたビートがヒグマの食害を受ける
11月22日	農地に集積されたビートがヒグマの食害を受ける
11月22日	農地に集積されたビートがヒグマの食害を受ける
11月25日	農地に集積されたビートがヒグマの食害を受ける